

令和6年度 自己点検・評価書

令和7年7月

佐賀大学

肥前セラミック研究センター

I 現況及び特徴（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

佐賀大学はCOC (Center of Community)として地域貢献を推進する大学を目指し、次の100年を担う窯業人材育成のため、平成25年に佐賀県と協力協定を結んだ。その後、平成28年4月に芸術地域デザイン学部を設置し、佐賀県立有田窯業大学校を統合し、佐賀大学有田キャンパスを発足すると同時に、肥前窯業圏の研究を中心とした地域貢献を目的とした肥前セラミック研究センターを設置した。

このような背景と現在の地域状況を考慮し、佐賀大学の基本的な役割は、肥前窯業の持続性を支える研究と教育であるということを再認識し、本学で平成28年12月に策定された中期計画カルテとアクションプランに基づき、肥前セラミック研究センターの設置に伴う機能強化経費等プロジェクト実行経費事業「やきものイノベーションによる地域共創プロジェクト」の推進強化を行った。

令和5年、第4期に入り各部門が目標に向け動き出したが、各部門の活動計画に加え、3部門が協働して取り組む体制とそれによる目標を示していないという反省から、第4期1年を過ぎていたが、令和6年度より、センター長をプロダクト・アート研究部門から選出し、「次世代に向けた有田焼の商品開発」の具体的な活動を進めることで、3部門全体での目標とし事業推進を図っている。

肥前セラミック研究センターは、プロダクトデザイン・アート研究部門、セラミックサイエンス研究部門、マネジメント研究部門の3つの研究部門から構成され、平成5年度には、それぞれ、4名、9名、4名の教職員が在籍した。そのうち、2名（（特任教授（非常勤）、准教授）が専任教員、専任の非常勤研究員1名、14名が併任教員である。

令和6年4月からの体制は、プロダクトデザイン・アート研究部門4名、セラミックサイエンス研究部門8名、マネジメント研究部門3名の15名の教職員が在籍する。そのうち、1名（特任教授（非常勤））が専任教員、14名が併任教員であり、さらに、3名の客員研究員で構成している。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター活動報告書 令和6年度版(9月発行予定)

II 目的（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

肥前セラミック研究センターは、有田焼、伊万里焼、唐津焼、波佐見焼などの肥前陶磁の伝統的技術・工芸と、ファインセラミックスの先進技術要素、市場調査等の陶磁器産業分析を組み合わせた、素材開発、やきもの表現活動、プロダクトデザイン研究開発、陶磁器やファインセラミックスの原料や制作技術の解析・応用を行い、人材育成及び地域の活性化に貢献することを目的とする。また、学内外における異分野教員が横断的に協力し、更に佐賀県窯業技術センター、佐賀県立九州陶磁文化館、地元陶磁器関連企業、海外の陶磁器関連大学等との連携により「やきものイノベーション」の創出を図り、地域社会の持続的発展に資することを目的とする。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和6年度版（9月発行予定）

【根拠資料2】 佐賀大学肥前セラミック研究センター規則

Ⅲ 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）（※必須記述です）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

（１）「肥前セラミック学」開講

令和４年度から、本学学部生を対象とした全学教育機構の全学教育科目（基本教養科目（自然科学と技術の分野））「肥前セラミック学」を開講している。本庄キャンパスでの陶磁器に関する講義やセラミックスに関する化学実験とともに、有田キャンパスでの陶磁器の制作体験や、有田町のフィールドワークも含んだものとなっており、３研究部門の特徴を統合したセンターならではの講義となっている。

（２）未来を拓く材料の科学Ⅱ（佐賀大学令和6年度 後学期 教養教育科目）

身近な無機材料や陶磁器の開発の歴史とその機構ならびに利用を、板書や配布資料や PowerPoint ファイルを用いて講義し、新しい無機材料が新たに生み出す世界を考察することができる人材の育成を目標とする。

- （３）佐賀県立有田工業高校キャリア教育支援 講義「ファインセラミックスについて」
- （４）佐賀大学公開講座「みんなの大学」講義「森永太郎の磁器販売と森永製菓の設立」
- （５）有田町（秋の陶器市時の有田市街地）見学への引率/窯元調査
- （６）外国人研究員２名の研究発表

○優れた点・特色ある点（継続的取組も含む）

地域、高校生、本学学生に対する異分野融合型のセンターの特徴を生かした授業提供や教育支援を継続して行っていると共に、外国人研究員２名を受け入れ、多様な海外の陶磁器に関する研究のアプローチを学生や地域に紹介することができた。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・「肥前セラミック学」の異分野のオムニバス授業の一貫性	異分野融合型のセンターの特徴を生かした大学教育への貢献が必要とされていたが、焼き物を通した異分野融合型の研究成果の講義への反映、新科目の開設など、改善できた。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- (1) 研究成果の教育への反映
本センターの研究に関連して教育を行い研究テーマとして捉えた学生は、合計 43 名いた。また、それにより成果として挙げた作品数は 27 点だった。
- (2) アリタ・マシュマロ・クリスマス 2024
アリタセラクリスマスイベント実行委員会の要請で学生によるイベント用オリジナルマグカップのデザイン作成を行い、学生の地域活動参加と制作スキルの向上につながった。
- (3) 陶交会×佐賀大学展
窯元との交流展開催により、産地の技術習得に繋がった。
- (4) 「book and work」神戸財団陶磁教育・作品交流' 25
学生がセンターの開発した素材を使った作品発表を行った。他大学との交流につながった。
- (5) 「次世代に向けた有田焼の商品開発」について学生 12 名が形状試作、制作法の習得を行っている。

○優れた点・特色ある点（継続的取組による成果も含む）

「次世代に向けた有田焼の商品開発」について学生と教員で形状試作、制作法の習得等を行う事で、有田焼の特徴把握と共に、持続的な生産工程、技術習得を探索できている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
これまでそれぞれの部門がそれぞれの分野で、或いは協働し陶磁器の文化的側面を講演会や成果報告会で学生の教育に反映してきたが、3 部門が協働した成果を教育への還元までつなげるべきである。	「次世代に向けた有田焼の商品開発」の課題を中心に、3 部門が 1 つの課題にそれぞれの分野で研究が進んでいる。課題の中間報告、研究の過程を通して教育への還元を図る。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

IV 研究に関する状況と自己評価

(※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。)

分析項目 I 研究活動の状況

- (1) 肥前陶磁器業の経営史について、伝統産業地域の現状と課題の研究に取り組んだ。
- (2) 有田の地域振興、有田焼の産業再生について、研究会やシンポジウムを積極的に行っている。
- (3) 「次世代に向けた有田焼の商品開発」をマネジメント部門の市場調査等を踏まえ、プロトタイプ制作、制作工程の試作中。
- (4) 3Dデジタルデザインツールを用いた陶磁器制作開発を佐賀県陶磁器工業協同組合等と連携し行っている。
- (5) ペルオキソ金属錯体及び、それを前駆体としたセラミックスの合成と応用研究を企業2社と進めている。
- (6) 産業廃棄物の陶磁器・セラミックス材料への利用研究を企業、佐賀県窯業技術センターと進めており、企業との契約に繋がっている。
- (7) 有田町を中心とする古陶磁片及び、原料の理化学的分析と人文科学的考察を進め、研究会や講演会により、広く周知している。
- (8) アスベストへの色素吸着機構の解明により、廃棄物中のアスベストの検知に関する研究を行った。
- (9) 近赤外ラマン散乱及び、ルミネッセンスを用いた古陶磁の研究、非破壊分析に関する研究を学外の研究機関と行った。
- (10) 陶磁器廃材・廃素焼き片・廃石膏型の有効利用に関する研究を企業と連携し行った。
また、それら廃材を使った藻礁による藻場の再生の研究を佐賀県や企業と行った。
- (11) 有田町への外国人訪問者に関する研究を有田商工会議所と行い報告した。

・各教員の研究課題及び共同研究相手

次ページに、研究課題等の一覧表を示す。

プロダクトデザイン・アート研究部門で4テーマ、セラミックサイエンス研究部門で17テーマ、マネジメント研究部門で3テーマの研究が実施された。

佐賀県窯業技術センター、有田町歴史民俗資料館、泉山磁石場組合、地元企業等の肥前地区の窯業関連機関とともに、(独)環境再生保全機構、瀬戸市文化振興財団埋蔵文化センター、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、景德鎮陶磁大学、民間企業等との協働での研究活動を行った。

研究テーマの多くは肥前地区の窯業関係機関とともに行われており、地域に密着した研究が実施されていることがわかる。

研究課題と連携相手

部門	教 員	研究課題	連携相手
PA	田中	焼成時無収縮磁器土による成形法開発と造形表現への応用	佐賀県窯業技術センター
PA	三木	3D デジタルデザインツールを用いた陶磁器製品開発	佐賀県、有田町、佐賀県陶磁器工業協同組合、企業 1 社
PA	湯之原	異素材を利用した陶磁器表現の研究	佐賀県窯業技術センター
PA	田中・湯之原・甲斐・三木	次世代に向けた有田焼の商品開発	佐賀県窯業技術センター
部門	教 員	研究課題	連携相手
CS	一ノ瀬・矢田・蒲地	完全無収縮陶磁器の開発と応用	佐賀県窯業技術センター
CS	一ノ瀬・矢田	自硬性鑄込み成形技術の開発と応用	企業 1 社
CS	一ノ瀬・矢田	ペルオキソ金属錯体及びそれを前駆体としたセラミックスの合成と応用研究	企業 2 社
CS	一ノ瀬・矢田	武雄市を中心とする古陶磁陶片及び原料の科学的分析と考古学的考察	武雄市・企業 1 社（受託研究）
CS	一ノ瀬・矢田・川喜田・蒲地	産業廃棄物の陶磁器・セラミックス材料への利用研究	企業 1 社・佐賀県窯業技術センター（共同研究）、企業 2 社・秘密保持契約
CS	海野・一ノ瀬・矢田	有田町を中心とする古陶磁陶片及び原料の理化学的分析と人文科学的考察	有田町歴史民俗資料館（共同研究）
CS	矢田	廃棄建材中のアスベストの検知に関する研究	（独）環境再生保全機構（受託研究）
CS	近藤	泉山粘土と天草粘土の物理・化学性および可塑性の比較検討	
CS	海野	近赤外ラマン散乱およびルミネッセンスを用いた古陶磁器の産地同定法に関する研究	佐賀県窯業技術センター 有田町歴史民俗資料館
CS	海野	近赤外ラマン散乱およびルミネッセンスを用いた非破壊分析に関する研究	瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター
CS	川喜田	セラミックス層導入円管チューブによる生体分子・粒子の分離	
CS	川喜田	泉山陶石の有効利用に関する研究	佐賀県窯業技術センター、 泉山磁石場組合、企業 1 社
CS	根上	陶磁器廃材・廃素焼き片・廃石膏型枠の有効利用に関する研究	企業 1 社
CS	磯野	金属/陶磁器複合体の開発と応用	
CS	三沢	IH（誘導加熱）に対応する有田磁器製の病院・介護施設給食用食器の開発	企業 1 社
CS	三沢	FEM による SPS 温度分布評価	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
CS	三沢	大気圧プラズマ成膜法による樹脂成形品への機能性付与技術の開発	佐賀県工業技術センター

部門	教 員	研究課題	連携相手
MGT	有馬	有田町の空き家の実態とその利活用に関する研究	企業 1 社、地域有識者
MGT	山本	肥前窯業に関する企業者史研究	山田雄久（近畿大学）
MGT	洪	ヤキモノの消費者意識に関する調査研究	
部門	教 員	研究課題	連携相手
客員 研究員	蒲地	強化磁器、高精度磁器等の新規機能性陶磁器の開発	
	浜野	肥前窯業圏における事業化デザインに関する研究	
	山田	肥前陶磁器業の経営発展と企業者活動に関する歴史研究	
	HAO	シンクロトロンを用いた古陶磁の特性評価	田端正明 理工学部特任教授、 呉軍明 景德鎮陶磁大学教授（共同研究）

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和 6 年度版（9 月発行予定）

○優れた点・特色ある点（継続的取組も含む）

- ・ 3 分野からそれぞれ地域と産業に対して、調査、研究、成果の提供が行われている。
- ・ ラマン分光法によるセラミックスの分析技術開発と古陶磁の分析への応用、シンクロトロン光を用いた産地推定法の研究などが、陶磁器の歴史的研究に大きな進展をもたらし研究機関より高い注目を頂いている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
更に 3 部門が連携し良く機能する形の研究も進めていく。	「次世代に向けた有田焼の商品開発」の課題を中心に、プロダクトデザイン・アート研究部門とマネジメント研究部門で、消費者調査等で協働を行っている。更にセラミックサイエンス研究部門の素材の技術的裏付けと古陶磁の原料分析の考察を裏付けとし有田焼に付加価値を加え研究を進める。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

- ・学術発表 13 件（学会発表や学術講演等）
- ・学術論文等掲載 10 件（著書、論文、解説等）
- ・作品発表・展示会数 27 件
- ・共同研究・受託研究・秘密保持契約等 5 件
- ・地域連携協定 1 件（H29～九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部）
- ・国際研究交流協定 1 件（H30～韓国窯業技術院 Icheon 分院）

主な研究成果

- (1) 「book and work」神戸財団「陶磁教育・作品交流展 2025」を愛知県立芸術大学、武蔵野美術大学と代官山蔦屋 2 階で共催。学生、教員 12 名が参加、作品発表。
- (2) ONE 有明アートフェスティバル「ACTIVATE ART+KOUGEI HAGAKURE(葉隠)自由と情熱」展、出展。スペシャルトークショー(対談)実施。
- (3) 「次世代に向けた有田焼の商品開発」についてプロトタイプ制作を学生と共に進め、重さと形状について調査した。
- (4) 「エントランスギャラリーでのプロトタイプ等展示発表」では有田キャンパスエントランスギャラリーで、授業での成果や研究成果展、卒業制作展等を開催。
- (5) 「有田キャンパスストリートギャラリー運営」では有田キャンパス前のガラスケースに学生・教員の作品入れ替えを行い、有田町の景観演出に寄与。
- (6) 「陶交会×佐大 PROJECT」は有田陶交会と佐賀大学学生が協働し、制作プロセスの情報交換を行い、研究制作を行う。陶交会と共に 3 月に佐賀県立九州陶磁文化館で研究制作成果を展示発表した。
- (7) 「肥前陶磁器業の経営史」について、伝統産業地域の現状と課題の講演会を佐賀大学 4 号館にて開催した。参加人数約 100 名。
- (8) 「有田地域振興について」「有田焼の再生について」「有田町の現状と有田焼産地のこれから」のマネジメント研究部門研究会を行った。
- (9) (公社)日本セラミック協会主催の第 37 回秋季シンポジウム研究発表において、“アスベストへの色素吸着機構の解明”“アルミナセメントとムライトファイバーを用いた自硬性超低収縮陶磁器材料の開発”“焼成無収縮陶土とセルベンを用いた低収縮陶磁器原料の開発”を名古屋大学で行った。
- (10) (公財)農業農村工学会主催の第 73 回農業農村工学会大会講演にて「ステンレス製鋼スラグを混和材料として利用したジオトリマーの圧縮強度について発表している。
- (11) 日本イオン交換学会にて「イオン交換基を壁面に導入したチューブ吸着剤による粒子分離」分離技術会年會 2024 にて「壁面に吸着層を導入したチューブ状吸着材による強制対流と拡散性を利用した粒子分離」を発表。
- (12) 令和 6 年度土木学会西部支部研究発表会にて「再生石膏を主材とする藻礁の作製・設置とモニタリング」を発表

○優れた点・特色ある点（継続的取組による成果も含む）

・陶磁器生産地域における地域の諸問題に対するアプローチをマネジメントの領域から行って地域の活性に貢献できた。
・地域に対し陶磁器制作の研究発表を継続的に行っている。
・理工学のそれぞれの専門領域の研究を進め、地域の抱える諸問題に対応した研究発表となっている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
研究成果の検証と記録を、学术论文や学会発表等で発表していく。	成果物の発表等を積極的に打ち出していくと共に、論文等にまとめる。また、シンポジウムや研究発表会により成果を公表していく。令和7年度は、4期の成果を具体的に示すよう計画している。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

国際交流

- (1) 外国人研究員2名の受け入れ ・ブライアン・アンダーソン氏、2024.9.1～2025.6.1 フルブライト奨学金受給、アメリカ・イリノイ大学シカゴ校工業デザイン学部准教授 ・ヨハンナ・ラウラ・コニック氏、2024.10.1～2025.8.31、JSPS 日本学術振興会奨学金受給、イギリス・ウェストミンスター大学メディアアート教育研究センター博士研究員、特にブライアン氏の研究は、サステイナブルな有田焼の生産に寄与するもので今後センターの外部研究員として研究を続ける。
- (2) 2024 「聞慶陶磁器フェスティバル」視察・「聞慶国際シンポジウム」講演、韓国聞慶市主催、檀国大学付属韓国伝統陶芸研究所主管、2024.4.27～5.3、韓国聞慶市・ソウル市
- (3) アジア現代彫刻会四大都市交流展 2024 出展、アジア現代彫刻会主催、2024.7.4～7.9、福岡アジア美術館
- (4) 2024 韓・中国国際文化芸術「未来の文化遺産」企画展」出展、2024.9.4～9.8、DODI 韓国陶磁デザイン協働協会、秦皇島ミヨク工業デザイン有限公社主催、秦皇島美術館／Qinhuangdao Museum（中国河北省）
- (5) 「第13回在来知歴史学国際シンポジウム（ISHIK2024）」論文発表および研究報告 テーマ：森永太一郎の森永製菓経営、精華大学三亜教学フォーラム、2024.11.5、中国・清華大学

地域貢献

- (1) 有田焼 × 草月流 (Arita×Sogetsu) プロジェクト公式サイト運営
有田焼窯元 (アリタプラス) と芸術分野 (いけばな草月流) と協働で花器を開発、最終的には製品化にまでつなげ、新規市場を開拓することを目標とした取り組みの記録
- (2) Go Forward 2024ー “P” にまつわる磁器のものづくりー
主催：NEXTRAD、後援：有田町、有田商工会議所、有田観光協会、佐賀県陶磁器工業協同組合、肥前セラミック研究センター、場所：有田窯元ギャラリーarita mononosu、2024. 11. 23～11. 24
- (3) 有田キャンパス ストリートギャラリー作品展示入替
2025. 2. 26～ 、場所：有田キャンパス前県道沿い ストリートギャラリー
- (4) 有田ニューセラミック研究会
主催：有田ニューセラミックス研究会、2025. 4. 3、4. 24、5. 1、5. 28、12. 6
- (5) 第 19 回有田ウィンドウディスプレイ甲子園
主催：一般社団法人 有田観光協会、2024. 7. 31～8. 25 (展示期間)、
展示場所：西松浦郡有田町内山地区、福岡県・佐賀県・長崎県の 5 校、16 チーム (50 名) の高校生が参加
- (6) 第 20 回有田秋の陶磁器まつり (うちやま百貨店参加)
主催：一般社団法人有田観光協会、2024. 11. 20～11. 24、
場所：有田町内山地区 (泉山～中の原)
- (7) アリタ・マシュマロ・クリスマス 2024
主催：アリタセラクリスマスイベント実行委員会 (佐賀県、有田町、有田焼卸団地協同組合)、2024. 12. 14～15, 12. 21～22、場所：アリタセラ
- (8) 委託研究報告書発行「武雄市内遺跡再整理事業報告書」
タイトル：” 武雄市を中心とする古陶磁陶片及び原料の科学的分析と考古学的考察”、
委託相手：武雄市、発行：2025. 3 月
- (9) 陶交会×佐賀大学 PROJECT、タイトル：MEMORIAL、2025. 3, 4～9、九州陶磁文化館

○優れた点・特色ある点 (継続的取組も含む)

陶磁器の研究交流ネットワークとしての韓国、中国、日本の研究者交流が盛んに行われた。また、アメリカ、イギリスから奨学金受給研究員を 2 名受け入れ研究交流を行ったことは、センターにも地域に対しても大きな貢献となると共に、研究の継続が見込まれている。また、社会貢献においては、九州陶磁文化館、窯業技術センターとの協力関係や、催しの開催など地域焼き物産業との連携もうまく機能している。焼き物関係機関、窯元等への就職も安定して供給できている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
中断したイスラエルのベベツアルエル美術デザインアカデミーとの交流の新たな道筋を作る。	これまで交流を積み上げてきた、ドイツ・ブルグギビヒェンシュタイン芸術デザイン大学、オランダ・アイントハーヘンデザインアカデミーとの学生交流に加え、教員間での交流も行っている。韓国窯業技術院利川分院（KICET）、韓国・国民大学校、中国・景德鎮陶磁大学との交流も再開している。さらに、アメリカ・イリノイ大学、イギリス・ウィンストミンスター大学の教員・博士研究員との研究交流を始めた。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()

[参考1：自己点検評価の観点（機関別選択評価項目B及びCより抜粋）]

B 地域貢献活動の状況

大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

- ・大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。
- ・計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
- ・活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
- ・改善のための取組が行われているか。

C 教育の国際化の状況

大学の目的に照らして、教育の国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

- ・大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。
- ・計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
- ・活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
- ・改善のための取組が行われているか。

VI-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

(※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。)

(1) 令和5年度活動報告書発行 (2024.9)

(2) ホームページ更新 <http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/>

(3) 肥前セラミック研究センター運営委員会

出席者：肥前セラミック研究センター運営委員会委員

列席者：研究協力課係長、事務補佐員

開催日：第1回 2024.7.29 オンライン会議

第2回 2024.10.29 メール会議

第3回 2025.1.10 メール会議

第4回 2025.2.3 メール会議

第5回 2025.2.6 メール会議

内 容：各種審議、報告等

(4) 企画会議

出席者：田中、矢田、有馬、一ノ瀬、事務担当

開催日：第1回 2025.3.7

場 所：オンライン

内 容：センター活動計画、予算執行計画、センター課題の共有等

(5) 部門長会議

出席者：田中、甲斐、矢田、有馬、事務担当

開催日：第1回 2024.5.7

第2回 2024.9.26

第3回 2024.12.19

場 所：オンライン

内 容：令和6年度予算、ロードマップ等

(6) センター全体会議

出席者：肥前セラミック研究センター教員、事務担当

開催日：第1回 2025.3.27

場 所：有田キャンパス

内 容：第4期中期目標期間ロードマップ、令和7年度予算、事業計画

(7) 四者会議

出席団体：佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター

開催日：2025.3.27

場 所：有田キャンパス

内 容：センター現況報告、意見交換

(8)有田キャンパス地域連絡会

出席者：関係自治体、学識経験者、窯業関係団体代表、芸術地域デザイン学部長、肥前セラミック研究センター長、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター

開催日：2025.3.27

場 所：有田キャンパス

内 容：センター現況報告、意見交換

(9)FD・SD 活動

肥前セラミック研究センターFD 研修会

日 時：2024.12.12

場 所：オンライン

参加人数：17 名

内 容：「次世代に向けた有田焼の商品開発」趣旨説明・活動計画
各部門報告

○優れた点・特色ある点（継続的取組も含む）

・四者会議（佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター）、有田キャンパス地域連絡会（関係自治体、学識経験者、窯業関係団体代表、芸術地域デザイン学部長、肥前セラミック研究センター長、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター）の開催により、毎年の本センターの活動について、評価や提案を集め、活動の検証につなげている

・3 部門それぞれ、陶片の科学的分析による考古学的考察や、陶磁器産業の課題についての調査など、有効な研究結果が見られたと共に、昨年度までの懸案であった3 部門間の連携強化について、「次世代に向けた有田焼の商品開発」に対し、マネジメント部門、サイエンス部門の成果を活用し、プロトタイプ制作等が進められている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
令和5年度までで専任教員3名の内2名（上席研究員・准教授）が退職し、令和6年度からの専任教員は非常勤の特任教授1人となる。専任教員の増員が望まれる。	第4期の活動計画に対して効果のある地域や産業に対しての企画や運営の出来る専任教員を希望していたが、適当な人材が見込めず確保できていない。しかし、海外大学の研究者との研究を予定している。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

VI－Ⅱ 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策

（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

なお、別紙様式【「令和5年度部局の自己点検・評価書」に基づく改善すべき点とその改善状況及び「令和6年度部局の自己点検・評価書」に基づく新たな改善すべき点一覧】は、令和7年9月の質保証統括本部会議等において、協議・検証するため、別途提出を要する。

